

女子
三段跳

岡島奏音さん大会新で日本一に

JOCジュニアオリンピックカップ 第19回 U18

10月17日から19日にかけて三重交通Gスポーツの杜伊勢陸上競技場で開催された「第19回U18・第56回U16陸上競技大会」において、U18女子三段跳の岡島奏音さん(高3)が12m81をマーク。大会新、高校歴代9位となる記録を打ち立て、優勝した。7月のインターハイでは4位にとどまり、「一番をめざしてきたので悔しさが大きかった」と振り返っていたが、今大会でついに悲願の日本一に輝いた。

―出口教諭と二人三脚でつかんだ頂点

岡島さんは「ずっと目標にしていた日本一を達成できて本当に嬉しい。多くの人に応援され、おめでとうと声をかけてもらったことで、これまでの取り組みが間違っていないと実感した」と語る。高校最後のインタ



ついに日本一に輝いた岡島さん

ーハイは強い思いを持って臨んだだけに、悔しさが大きかった。しかし「落ち込んでチャンスを無駄にする方がもったいない」と前を向き、練習に対する意識を一段と高めた。競技力向上に加え、勝ちたいという気持ちだけでなく、食事や睡眠といったコンディション管理にも主体的に取り組み、結果へ結び付ける準備を整えていった。支えとなったのは、自身も三段跳の選手として活躍した出口大貴教諭の「絶対日本一にさせるから」との言葉。うまくいかない時期や自信を失いかけた場面でも、この言葉に励まされた。中高を通して注目が集まり、期待やプレッシャ

ーに揺れることもあったが、出口教諭は「周りを気にする必要はない。3年目に笑顔で終われるようにやるべきことをやろう」と寄り添い続けた。今後は地元を離れ、新たな環境で競技を続ける。岡島さんは「現状に満足せず、これからも高みをめざす。夢は日本を背負う選手になること。まずは大学でも日本一をめざす」と抱負を述べる。出口教諭は「彼女の最大の強みは、何があっても諦めない心。この結果はまだスタートライン。大学、社会人と経験を重ね、日の丸を背負う選手に成長してほしい」と期待を寄せた。

皇學館 学 園 報

第108号

令和7年12月



■注目記事

カルチャー&スポーツ 2面
駅伝競走部・柔道部・硬式野球部
大会結果

イベント&エデュケーション 3面
京都橘大学で視察研修

グローバル 4面
日本宗教研究の成果を世界へ発信
カナダ・マギル大学「前近代日本宗教国際会議」

5面
令和7年度内定状況(中間報告)

中高トピックス 6面
皇學館高等学校通信制課程の
ご案内 ほか

7面
倉陵祭・皇中祭を開催

笛師・松下恵吾さん(神道4)が
伊勢市美術展覧会で受賞

アクティブスチューデント 8面
赤松芽衣さん(コミ2)の作品が優秀賞
第45回「地方の時代」映像祭 ほか

発行・編集 学校法人皇學館 企画部
TEL 0596-22-6496・8600

大 学 | 大学院 | 文学部 | 教育学部 |
専攻科 | 現代日本社会学部 |
〒516-8555 三重県伊勢市神田久志本町1704
TEL 0596-22-0201(代) FAX 0596-27-1704

高等学校・中学校
三重県伊勢市楠部町138
[高校] 〒516-8577 TEL 0596-22-0205(代)
[中学] 〒516-8588 TEL 0596-23-1398(代)

皇學館高校で探究活動が活発に展開

皇學館高等学校では「総合的な探究の時間」において、2年生が主体的かつ活発に探究活動に取り組んでいる。4年目を迎えるこの活動は、一連のプロセスを通して思考力・判断力・表現力を育むことが狙い。生徒たちは設定したテーマに対する深い考察と実践的なアプローチにより、総合的な問題解決能力を養う。

探究活動は国公立系・教育系・私大進学系・医療看護系・理系の5つの系統に分かれており、それぞれプログラムが展開されている。本校探究活動の特長は地域に出向いて実施するフィールドワークの充実、高大連携による専門的な学び、一流講師陣による指導にある。フイー

ルドワークでは実体験を通じて机上の学びでは得られない視点をえられる。また、講師には本学の教授陣をはじめ、行政職員や現役の医療従事者など、各分野の第一線で活躍する専門家を招き、実践的かつ高度な内容の講義を行っている。

―高大連携により質の高い学びが実現

1学期には伊勢市役所職員や医療関係者による講話が行われたほか、本学からも齋藤平学長をはじめ、中松豊教授

生徒たちの探究意欲を刺激した。

2学期にはフィールドワークを取り入れ、より具体的な学びを進めている。11月5日には本学教育学部の学生が子育てを実践的に学ぶ「子育て支援活動びよびよ」を見学。教育系クラスの生徒たちは実際に幼児と保護者の関わりを間近で観察し、保育の現場で求められる配慮や工夫を学んだ。



「びよびよ」を見学する生徒たち

「泣いたり大きな声を出したりしても、講師の方が肯定的な言葉で受け止めていたのが印象的だった」「子どもたちを引きつけるように感情を込めて絵本を読む姿に感動し

3月の成果発表会で学びの成果を披露する予定だ。

理事長交代、感謝と継承の集い

11月7日、小串和夫前理事長の長年にわたるご尽力を労い、あわせて圓藤恭久理事長の就任を披露する会が熱田神宮会館で催された。

挨拶に立った小串前理事長は在任した5年半を振り返り、「コロナ禍というかつてない困難の中、教職員が一丸となって乗り越えてく

つばい学園運営に努めてまいりました。今後ともご支援とご協力をお願いしたい」と決意を語った。

来賓の方々からも温かいお言葉をいただき、会は和やかに執り行われた。

小串前理事長、常任顧問に就任

小串前理事長には引き続き常任顧問に就任いただき、大所高所からご指導を仰ぐこととなった。

倉田山
春秋

全国でクマの出没が相次いだ▼これまでは、北海道のヒグマが気性も荒く危険で、吉村昭『黒嵐』に描かれているような被害を生じさせてきた。一方、本州のツキノワグマは大人しいという認識だった▼ところが、今年のツキノワグマは様子が違った。普段、現れないような市街地に姿を見せ、人を襲うことまであった▼そもそもクマの語源は「隠れている」という意味で、熊野は山の向こうに隠れているところ、目の下のくまは陰になつている部分、歌舞伎の隈取は顔に付ける陰影のことだ▼だから、動物のクマも本来は隠れている存在で人には姿を見せない生き物という意味だった▼ツキノワグマの生態に詳しい専門家も餌となる木の実は凶作だったことに加え、行動そのものの変容が背景にあるという(若手大・山内貴義准教授)▼幸い伊勢市内ではクマの目撃情報は少ないが、近隣の度会郡や松阪市では目撃がある▼まずは、クマに遭わないことが最大の防御だという。これまでツキノワグマに遭った経験のない近場の里山へのハイキングでも油断せず、ラジオや熊鈴をつけて出かけることが大切だ。

Culture & Sports
カルチャー＆スポーツ

曾越祐志選手(現日2)が東海学連のアンカーとして出場

11月2日に開催された「秩父宮賜杯第57回全日本大学駅伝対校選手権大会」で、本学駅伝競走部の曾越祐志選手が東海学連選抜チーム(5時間36分52)のアンカーとして8区を力走した。全国から強豪校が集う中、東海地区は名古屋大学が20位(5時間35分25)、岐阜協立大学が21位(5時間33分47)でゴール。惜しくも来年度の出場枠は1枠に減少したものの、各選手が最後まで粘り強い走りを見せた。



本学前を力走する曾越選手



大会結果はこちらから▶

【速報】駅伝競走部、劇的逆転優勝！出雲路への切符掴む

12月14日に開催された第87回東海学生駅伝で、本学駅伝競走部が逆転優勝を飾り、来年の出雲駅伝への出場権を獲得した。



1区は6秒差の5位につけ、2区ではトップと15秒差に広がったが、3区の清水大斗選手(現日2)、4区の前野皓士選手(コミ3)が区間1位の走りでトップに躍り出た。5区で逆転を許したものの、最終6区で新間圭選手(現日3：写真上)が主将として意地の走りを見せ、再び逆転しゴールテープを切った。

寺田夏生監督は報告会で、「最後まで接戦の形となり、緊迫の展開でしたが、選手たちがしっかりと最後まで力を振り絞り、勝つことができました」と激戦を振り返りつつ感謝を述べた。新聞選手は「この流れを崩さず、これからも結果を意識して頑張っていきますので、応援よろしくお願いします」と力強く挨拶。優勝の勢いを来年へつなげるべく、一層の奮起を誓った。



クラブ応援メッセージ募金授与式を開催



皇學館クラブ応援メッセージ募金授与式が、大学は令和7年11月14日、高校中学校は同月29日に行われた。

この皇學館クラブ応援メッセージ募金は、クラブ活動に力を注ぐ学生・生徒への物心両面での支援をお願いするもの。贈られたメッセージや募金は、半期ごとに寄付者が指定したクラブにお渡ししている。

大学の授与式では冒頭、齋藤平学長が「応援してくださる方々の思いを汲み取って、今後のクラブ活動の強化・充実に役立ててください」と学生を激励。16団体に目録を手渡した。また、高校の授与式では芝崎俊也校長からクラブ顧問へ募金を手渡された。

募金していただいた皆様にはこの場をお借りしまして、厚く御礼申し上げます。引き続きご支援のほど、よろしくお願いいたします。



詳しくはこちらから▶

※クラブ別配分金については、令和7年度末(K-らいふ)にてご報告させていただきます。



出雲路を疾走する松葉選手

新聞選手は「目標タイムに届かず悔しい結果でしたが、多くの応援が力になりました」と振り返る。だが、この悔しさが次への原動力となった。来年の本選出場権「1枠」をかけた東海学生駅伝(12月14日開催)では見事な逆転優勝を決め、出場切符を獲得した(小枠参照)。来年の本選での走りに注目だ。

過去最高順位(14位)の更新と東海地区の出場枠増を目標に挑んだ。気温26℃、風速2.5メートルのコンディションのもと、13時5分に出雲大社前をスタート。初出場5名を含むフレッシュな布陣で臨んだ。

1区曾越祐志選手(現日2)が区間21位で櫂をつなぐと、2区清水大斗選手(現日2)が区間14位と健闘。3区前野皓士選手(コミ3)は風に苦しみながらも18位に順位を上げた。4区塩見昊瑛選手(現日2)は粘りの走りを見せ、5区は唯一の1年生である松葉琥太郎選手(教育1)がアップ



若手主体のチームにとって貴重な経験になった



雪辱を胸に、闘志を燃やす柔道部員たち

全日本学生柔道体重別団体優勝大会			
1回戦●対 新潟食料農業大学			
先鋒	高橋 奏斗(教育3)	引き分け	
次鋒	井野川幹太(現日2)	引き分け	
五将	井上 寛仁(教育2)	引き分け	
中堅	鬼塚 勇心(教育3)	優勢勝(有効)	
三将	高橋 侑雅(教育4)	優勢勝(有効)	
副将	南 大志(現日4)	一本勝	
大将	淵上 朔(現日2)	引き分け	

2回戦●対 順天堂大学			
先鋒	若谷 怜(教育4)	優勢勝(技術)	
次鋒	南 大志(現日4)	一本勝	
五将	井上 寛仁(教育2)	一本勝	
中堅	鬼塚 勇心(教育3)	優勢負(技術)	
三将	高橋 侑雅(教育4)	一本負	
副将	中西 亮二(教育3)	一本負	
大将	若谷 快(教育3)	一本負	

佐藤武尊部長は戦況を振り返り、「今回は『攻めの柔道』を掲げて臨みました。個人戦での悔しさを糧に全員が最後まで果敢に戦い抜いたと思います。僅差の敗戦でしたが、個人戦のときのような虚しさはなく、むしろ皇學館としての存在感をアピールできた。私たちがの代では結果を残せませんでした。ここにいる後輩たちがきつと成果を出してくれると信じています」と話し、思いを託した。

フレッシュな布陣で17位

第37回出雲全日本大学選抜駅伝競走

第37回出雲全日本大学選抜駅伝競走が10月13日、島根県出雲市で開催された(全6区間45.1km・出場22チーム)。2年ぶり6回目の出場となる本学駅伝競走部は

順位	大学名	記録
1位	國學院大学	2:09:12
2位	早稲田大学	2:09:50
3位	創価大学	2:10:05
4位	アイビーリーグ選抜	2:10:12
5位	駒澤大学	2:10:27
6位	城西大学	2:10:41
7位	青山学院大学	2:10:52
8位	帝京大学	2:11:32
9位	東洋大学	2:12:06
10位	中央大学	2:12:43
11位	東京国際大学	2:16:33
12位	関西大学	2:18:06
13位	札幌学院大学	2:18:24
14位	信州大学	2:18:39
15位	志学館大学	2:19:31
16位	環太平洋大学	2:19:58
17位	皇學館大学	2:20:08
OPN	中国四国学連選抜	2:21:00
18位	京都産業大学	2:21:12
19位	新潟大学	2:22:22
20位	東北学連選抜	2:22:37
21位	北海道大学	2:28:15

順天堂大に惜敗も攻めの柔道で存在感

全日本学生柔道体重別団体優勝大会

10月18・19日、ベイコム総合体育館で行われた全日本学生柔道体重別団体優勝大会に本学柔道部が出場した。初戦は新潟食料農業大学に3-0で快勝。続く2回戦では、東京代表で本大会ベスト8入りを果たした強豪・順天堂大学と対戦し、3-1で惜しくも敗れた。

柔道の存在感をしっかりと示すことができた大会でした。続けて、「すでに次を見据え、試合直後にミーティングを開き、翌朝から自主練に励む選手もいます。ここから新たなスタートを切り、柔道界や社会で貢献できる人材に育ってほしい」と今後への期待を込めた。主将の南大志選手(現日4)は「たくさんさんの応援をありがとうございました。私たちの代では結果を残せませんでした。ここにいる後輩たちがきつと成果を出してくれると信じています」と話し、思いを託した。



1回戦で一本勝を決める南選手(右)

完全優勝の勢いで臨むも、あと一歩

第21回東海地区・北陸・愛知三連盟王座決定戦

明治神宮大会への最終関門となる第21回東海地区・北陸・愛知三連盟王座決定戦が11月1日にパロマ瑞穂球場(名古屋市中区)で開催した。

三重県秋季リーグで4校すべてから勝ち点を挙げる完全優勝を果たし、14季連続・16度目の優勝を飾った本学硬式野球部は、東海地区大学野球秋季選手権大会で2位となり、王座決定戦に出場。3地区の2位校によるトーナメントで名城大学(愛知)と対戦し、序盤から緊迫した展開となった。



犠牲フライを放った出口(智)選手

二回、1死・三塁の場面で内野ゴロの間に1点を先制され、五回には2死二塁から適時打を浴びて追加点を許した。その後は粘り強い守備で試合を立て直し、六回と七回の2度の満塁のピンチも無失点で切り抜けた。



渾身の一球を投げる工藤投手

本学では最速146キロを記録した独立リーグに入団する工藤岳投手(現日4)のほか、「打てる二塁手」として注目される池田真翔選手(現日2)が存在感を発揮した。来季のさらなる飛躍が期待される。

村田貴俊選手(現日4)の連打でチャンスをつくり、出口智基選手(教育3)が犠牲フライを放って1点を返した。しかし反撃もここまでとなり、1-2で惜しくも敗退。決勝トーナメント進出はならなかった。勢いに乗った名城大学が優勝し、明治神宮大会でベスト4の成績をおさめた。

就任のご挨拶

学校法人皇學館 常務理事
秦 昌 弘 (満67歳)



10月11日付で常務理事に就任しました。9年間にわたり神職養成部にて、学内外の多くの方々にお世話になってきましたが、皆様方には一層のご指導、ご協力をお願いすることとなりました。

本学卒業後は、神職として神明奉仕とともに博物館学芸員として、日本文化、美術に関する展覧会に携わってきました。そのようななか、神道を建学の精神にすえる本学の教育、研究の素晴らしさを実感することが度々ありました。その点を、一層充実させていくことは、現在の社会が抱えるさまざまな課題の解決への糸口を見出すことにつながっていくものと思われます。

神宮皇學館、神宮皇學館大学を継承する皇學館大学を始め皇學館高等学校、皇學館中学校が、特色ある地位を占め、その存在が我が国発展の安定的基盤となるよう努めてまいりますので、何卒よろしく願い申し上げます。

経 歴	
昭和57年3月	皇學館大学文学部神道学科卒業
昭和59年7月	多度大社権禰宜(平成元年3月迄)
平成元年4月	四日市市教育委員会博物館準備室学芸員(平成5年3月迄)
平成5年4月	四日市市立博物館学芸員(平成25年3月迄)
平成26年4月	桑名市博物館館長(平成29年3月迄)
平成28年6月	公益財団法人鈴屋遺跡保存会理事(現在に至る)
平成29年4月	学校法人皇學館理事(現在に至る) 皇學館大学神職養成部長(令和6年10月迄)
令和6年11月	学校法人皇學館調査役(令和7年11月迄)

人事異動

退 職 学生支援部就職担当 辻 宗久
就職アドバイザー 令和7年10月31日付
法人本部事務局調査役 秦 昌弘
令和7年11月7日付

採 用 学生支援部就職担当 田間 敏明
就職アドバイザー 令和7年11月1日付

新任教職員紹介

令和7年11月1日付

①出身・経歴等 ②趣味・特技等 ③座右の銘 ④一言メッセージ

学生支援部就職担当 就職アドバイザー
田間 敏明
①三重県 ◆ 日本大学経済学部卒
②家庭菜園 ③石の上にも三年
④6年半ぶりに現職場へ復帰しました。期間限定ですが、よろしくお願いします。



地震避難訓練を実施

10月9日、学内で地震避難訓練を実施した。16時43分、緊急地震速報の放送が流れると、学生は教職員の誘導に従い、速やかに芝生広場へ避難・整列した。続いて、全学生に送信済の安否確認メールについて、必ず返信するよう指示が出された。訓練後の講評で中條敦仁学生部長は、「災害はいつ発生するかわかりません。まずは落ち着いて避難し、安全な場所に集まることを最優先に考えてください」と呼びかけた。さらに、「災害時に最も問題となるのは、恐怖や混乱による判断の遅れです。なぜ訓練を行うのか、その意味をしっかり理解して臨んでください」と強調した。最後に「率先して冷静に行動できる人になってほしい」と述べ、訓練の重要性を改めて訴えた。



各クラブの代表者、希望学生に対し消火栓の使用方法を説明

Event & Education イベント&エデュケーション



環境整備や学生の雰囲気を感じてもらう機会となった

当日は同大学幹部職員と、事前に回答いただいた質問やテーマについて質疑応答を行い、運営方針等の理解をさらに深めるとともに、新しい施設が並ぶキャンパスの紹介があった。令和14年に創立百五十周年・再興七十周年を迎える本学にとって、大学の魅力向上はもちろん、若手職

員の育成にも意義があった。お忙しい中、ご対応いただきまし

京都橘大学で視察研修

11月18日、若手を中心とした本学事務職員10名が、研修のため京都橘大学を訪問した。私学を取り巻く環境が一層厳しさを増す中、近年志願者・入学者数を着実に伸ばす同大学の実践に学び、改革の示唆を得ることが目的である。

以下に研修報告から一部を抜粋して掲載する。

- 施設** 学生が自由に使えるフリースペースが充実しており、活気がある。
- 運営** さまざまな施策が戦略的であり、徹底した情報収集と分析から最適解を導き出すプロセスが大学の標準文化として確立されている。
- 組織** 職員が所属部署だけでなく、大学全体の問題として課題を捉え、解決に取り組み意識を持っている。
- 学生** 学生や若手職員の目線を重要視し、それらを施策に取り入れている。
- 短期的なマーケティングと長期的なブランディングを両輪として機能させ、持続可能で強固な大学運営をかなえている。**



油屋の様子が見える絵巻書セット

知られていない、地方での歌舞伎の歴史にスポットを当てたかった」と話す望月さん。伊勢では

B班では江戸時代に伊勢国古市で起きた殺傷事件を題材にした歌舞伎『伊勢音頭恋寝刃』を深く掘り下げた。展示では事件発生から歌舞伎の演目として現代まで演じ続けられてきたプロセスを紹介し、伊勢と歌舞伎の関係に着目した。「あまり

B班「伊勢音頭恋寝刃」演じ続けられる「際物」

望月裕太さん(国史4)

勢の文化がどう発展していったのか関心を持ってもらえたら」と展示への思いを語った。また、展示作りを通じて、「来館

A班では近世に大ブームを巻き起こした「お伊勢参り」が現代までどう受け継がれてきたのかを浮世絵や写真、絵巻書などさまざまな資料を用いてわかりやすく紹介した。奥野さんは「当時の人々にとってお伊勢参りがどれほど特別で、伊勢の文化がどう発展していったのか関心

A班「絵でめぐる伊勢路」参宮の今昔」

奥野侑里さん(国史4)



東海道中膝栗毛(上)と伊勢参宮名所図会(下)



大日本行程大絵図

卒業展示で伊勢の歴史・文化を発信

博物館実習(学芸員課程)を履修する学生たちによる卒業展示が8月1日から9月27日まで開催された。今年で20年を迎える卒業展示は、学生たちが自らテーマを選定し、資料を集め、構成を練り上げる学びの集大成。熱い思いが詰まった2つの展示が、伊勢の歴史と文化に新たな光を当てた。

ふみくら倶楽部×防災科研

「あなたの防災」展を開催

本学附属図書館の学生ボランティア団体「ふみくら倶楽部」が、国立研究開発法人「防災科学技術研究所」(以下、防災科研)と協働し、企画展「あなたの防災」(令和7年7月1日〜10月31日)を開催した。学生団体が文部科学省所管の国立機関と連携するのは極めて珍しい。



ふみくら倶楽部のメンバーと防災講演を行った山本さん(前列右)



同展のために特別に制作していただいた防災科研オリジナルパネル(図書館1階)

「あなたの防災」展では防災科研が本企画のために制作した2種類のオリジナルパネルの展示をはじめ、防災グッズや関連書籍を集めたコーナーを設置した。9月26日には特別企画としてキヤッチボール型講演会を実施。本学卒業生で、令和6年能登半島地震の被災者でもある山本謙利氏を講師に迎え、体験談に基づく貴重な講話が行われた。

ふみくら倶楽部代表の星野愛さん(国文3)は、「一つの出会いから、このような社会的に意義ある取り組みにつながったことを大変光栄に思います」と語り、今後の活動への意欲を新たにしていた。

「あなたの防災」展では防災科研が本企画のために制作した2種類のオリジナルパネルの展示をはじめ、防災グッズや関連書籍を集めたコーナーを設置した。9月26日には特別企画としてキヤッチボール型講演会を実施。本学卒業生で、令和6年能登半島地震の被災者でもある山本謙利氏を講師に迎え、体験談に基づく貴重な講話が行われた。

「あなたの防災」展では防災科研が本企画のために制作した2種類のオリジナルパネルの展示をはじめ、防災グッズや関連書籍を集めたコーナーを設置した。9月26日には特別企画としてキヤッチボール型講演会を実施。本学卒業生で、令和6年能登半島地震の被災者でもある山本謙利氏を講師に迎え、体験談に基づく貴重な講話が行われた。

伊勢まつりに CLL活動が出店



人気を博した「すごろくゲーム」のブース

10月11日、12日に開催された「伊勢まつり」に、本学のCLL活動などがブースを出店し、祭りを盛り上げた。これは市制20周年企画「未来へつなごう伊勢まつり」に応じたもので、学生が地域に貢献する活動を中心に企画を立案した。

12日、CLL活動からはAIを活用したオリジナルブック作成体験「Generative Link AI結(あいむすび)」と、「伊勢志摩TSUTAE隊(旧:あばばい〜伊勢志摩国立公園学生部会〜)」による3市1町(鳥羽市・志摩市・伊勢市・南伊勢町)を巡るすごろくゲームが出店された。出店に参加した松崎圭冴さん(現日1)は「想定よりも多くの方に訪れていただけた。最初は緊張したが、子どもたちがすごろくで遊ぶ姿を見て自然と笑顔になり、楽しく接することができた」と、交流の充実感を語った。

ほかにも、教育学部の駒田聡子教授のゼミによる伊勢茶のふるまい、皇學館サービス株式会社からは「ばんじゅう」などの物品販売も行われ、



伊勢茶の味を楽しむ来場者

雨のなか多くの市民が本学ブースを訪れた。本活動は、本学の地域貢献活動を市民に知っていただくとともに、学生が地域社会との交流を通じて実践力を養い、地域貢献への意欲を高める貴重な機会となった。

学生が全国まちづくりカレッジに参加



現代日本社会学部の地域社会研究会と茶業研究会の学生11名が令和7年9月16日・17日に香川県で開催された「第30回全国まちづくりカレッジ2025 in 直島」に参加した。同カレッジは、大学と行政、商工会議所、NPOなどが連携し、地域社会と大学教育の結び付きを深めることを目的とした全国的な交流の場。まちづくりに携わる学生団体が一堂に会する。



本学学生たちは直島地域活性化プロジェクトが実施するフィールドワークに加わり、地域住民との対話や現地観察を通じて、観光と地域生活の両立について学んだ。住民からは、観光客の増加を歓迎する一方で、オーバーツーリズムによる課題にも直面している現状が語られ、地域を多面的に捉える重要性や地域文化への理解が共生の鍵であることを実感した。また、他大学の学生との交流を通じて、発表資料の工夫や効果的な情報発信方法も学ぶことができた。今回の経験を通じ、今後の地域研究活動において、多様な視点を取り入れ、実践的な提案へとつなげていく決意を新たにした。

グローバル

日本宗教研究の成果を世界へ発信

カナダ・マギル大学「第6回 前近代日本宗教国際会議」

令和7年10月23日から24日にかけて、カナダ・マギル大学で「第6回前近代日本宗教国際会議」が開かれ、本学から塩川哲朗准教授と瓜田理子准教授が出席した。両准教授は神道や式年遷宮に関する研究成果を英語で報告し、国内外の研究者と実りある意見交換を行った。



研究発表を行う塩川准教授(左)と瓜田准教授

研究者間の意見交換と国際交流を目的とした今回は、日本の宗教儀礼における響きと色彩」をテーマに、北米・ヨーロッパ・日本から日本宗教学研究の専門家(大学教授、研究員、大学院生)が集まり、神道や仏教の祭祀・儀礼に関する最新の研究成果を発表した。

塩川哲朗准教授は「天皇祭祀と神宮祭祀―古代における神宮式年遷宮の祭りを題材に―」と題し、山口祭など第63回神宮式年遷宮に関する重要祭儀を紹介。式年遷宮の概要や成立、天皇の祭りと神宮の祭りの対応性・補完関係などについて論じた。瓜田理子准教授は「音なき祈りの深奥―伊勢神宮と賢所における神楽秘曲とインド音響思想との対話―」との演題で、微音により神楽を神前で奏することの宗教的意義を論じた。

前近代の天皇や神宮の祭祀に関する専門的な研究が海外で紹介されるのは珍しいこともあり、会場からは神道や神宮の祭祀・儀礼について多くの質問が寄せられ、海外の日本宗教研究者における神道や神宮への関心の高さが窺われた。

会議の後も神道についての質問や意見交換は続き、海外の研究者が資料に基づいた正確な知識を求め、神道研究に対して公平な視点で自然体にな宗教的意義を捉えようとしていたことは良い驚きであった。

タイ・チェンマイJCIの団員と本校生徒が交流

皇學館中学校

リーダーシップの育成や国際交流などを通じて地域貢献プロジェクトを展開するJCI(Junior Chamber International)のタイ国・チェンマイ支部に所属するメンバー26名が9月30日に来校し、皇學館中学校の生徒らと交流授業を行った。

お出迎えの後、中学校体育館で歓迎式を実施。本校代表生徒2名による英語での司会のもと、双方の代表者による挨拶やタイ国伝統



会場を魅了したタイの優美な伝統舞踊



箏の演奏法を教える本校生徒

の舞踊が披露された。独特な調べに乗せ、指先に至るまでしなやかに舞う姿に会場は息をのんだ。続いて、本校日本文化部による箏の演奏が披露され、着物の着付け体験や箏の演奏体験を楽しんでいた。その後、本校3年生を中心として、タイの訪問団の生徒たちと昼食を共にし、各席において生徒たちは英語で会話に花を咲かせていた。また、タイ国・チェンマイの名所や名物等に関するプレゼンテーションも行われ、会場は終始和やかな雰囲気にも包まれた。

約4時間という短い時間ではあったが、お互いの文化を理解し、友好を深める一日となった。生徒たちは日頃の学習の成果を発揮し、堂々と英語によるコミュニケーションを実践。国境を越えて交流を深める良い機会となった。

チェンバレン・上田万年旧蔵『歌枕名寄』



皇學館大学附属図書館 澤瀉久孝文庫所蔵

澤瀉久孝文庫は、京都大学名誉教授で万葉集研究の大家であった澤瀉久孝博士の蔵書を収めたものである。伊勢の御師の家柄に生まれた澤瀉博士は、再興された本学において昭和43年まで兼任教授として講義をされていた。

この文庫には、万葉集古写本断簡をはじめ文化財級の古典籍が多く残されているが、その一つに『歌枕名寄』がある。『歌枕名寄』は、鎌倉時代末期に澄月が編纂した歌学書である。澤瀉文庫本はその伝本の一つとして貴重な資料。箱入り38冊で料紙には鳥の子紙が使われ表紙に金泥を散らした豪華な写本である。

さて、この写本は研究上重要であるばかりでなく、じつは本学にゆかりの深い写本である。巻一の「丁表に「英王堂蔵書」の印が押されている。これは明治19年に東京大学文科科大学教師となったバジル・ホール・チェンバレン(1850年〜1935年)の蔵書印である。さらに最終巻の巻三八の末尾に、「上田万年博士蔵書賣立のノ折予が書架に入る(花押)」という、澤瀉博士自筆の識語が残されている。チェンバレンが離日に際して、東京帝国大学での教え子上田万年(慶応3年〜昭和12年)に蔵書を譲ったことが知られている。上田万年が死去した後、上田の蔵書も売り立てられており、澤瀉博士がこの写本を入手した背景には、右のような経緯がある。

チェンバレンは、日本に近代的な言語学をもたらした、それを引き継いだのが上田万年である。そのみならず、上田は神宮皇學館第8代館長を務めており本学とのゆかりも深い。この写本は数奇な道をたどっている。それはそのまま近代国文学の歴史物語でもある。チェンバレンから上田万年を経て、澤瀉博士の書架に入ったこの写本が本学の所蔵となったことは、研究のみならず写本伝来の歴史を知る上でも意味深いと言わねばならない。

神道学科教授 橋本雅之



令和7年度
内定状況(中間報告)

393名が内定
内定率71.8%
(令和7年12月1日現在)

全国的には売り手市場ではなく「部分売り手市場」

12月1日時点の本年4年生(26年卒)就職内定率は71.8%(内定者数393名/就職希望者547名)となった。

株式会社マイナビによると、26年卒の全国的な傾向として、第一志望を含め複数の内々定を得るなど優位に活動した学生もいれば、思うように内々定が取れず苦戦する学生も存在する「部分売り手市場」になったとされている。就職活動の継続率は、4月末時点では前年を下回り、5月末・6月末で前年と変わらない割合となり、7月末時点で前年を3割弱上回る数値になった。「売り手市場」という安易な言葉に惑わされず、堅実な就職活動が必要といえる。

内定先内訳							
	神 社	企 業・ 団 体	医 療・ 福 祉	公 務 員	教 員(小 中 高)	教 員(幼 保 育 士)	計
R7.12.1	31	215	9	26	75	37	393
昨年同時期	38	317	7	39	65	37	503

年も金融・保険関係18名、農業協同組合4名が内定を得ている。

就職担当には令和8年1月以降も応募可能な求人依頼が届いており、最後まで一人ひとりに寄り添った支援を継続している。未内定の学生も卒業までの進路決定を諦めずに活動してほしい。

公務員 今年度も国家、地方と幅広く合格

今年度の公務員試験も行政職を中心に、日程や試験内容に変動が見られた。引き続き地方を中心に学生の「安定、地元」志向は高く、人気のある自治体や新たにSPIが試験に導入されたケースでは高水準傾向となっている。

現時点の公務員合格者は延べ46名となった。合格先の内訳は、国家公務員(一般職、国税専門官、三重県庁(行政職)、四日市市(行政職、福祉職)、鈴鹿市、亀山市、津市、松阪市、伊勢市(行政職、学芸員)、志摩市、尾鷲市、熊野市、名張市、南相馬市、田村市、玉城町、大台町、飛鳥村、三重県警、大阪府警、長野県警、桑名市消防、四日市市消防、伊勢市消防、法務教官、皇宮警察となっている。

就職関係 三重県は既卒も含め151名が合格

令和7年度教員採用試験結果は、三重県については既卒も含め151名現役合格は64名が合格、三重県以外では15名が現役合格した。現役合格計79名は過去最高の人数。合格した都道府県市については以

清めの雨の中、初穂曳に学生・教職員93名が参加

10月15日、第54回「初穂曳」が行われ、本学から83名の学生と教職員を合わせ93名が参加した。



「初穂曳」は伊勢神宮の大祭「神嘗祭」を奉祝する行事。清めの雨が降る中、法被姿の学生たちは、「エンヤー」の掛け声に合わせて力強く綱を引き、外宮北御門までの約1キロを進んだ。奉曳会の学生8名は黒法被をまとい、「お伊勢の空に木遣りが響く我らは皇大奉曳会」など伝統の木遣り歌で行列を盛り上げた。到着後は齋藤平学長を先頭に稲束を奉納し、御垣内参拝を行った。奉曳会の野村光太郎さん(神道1)は「今回が初めての初穂曳参加でした。神宮の祭りに参加でき、さらに自分が関わった稲を奉納できたこと、そして木遣りとして参加させていただけたことがとても嬉しかった」と感想を話した。

令和7年度 山室山参拝・参拝見学を実施

国学者・本居宣長の命日である11月5



日、神宮皇學館以来の伝統行事である山室山参拝・参拝見学が実施された。本行事は建学の精神を確実に理解し、本学の伝統的学風を体認する大切な行事として位置付けられている。参拝・見学先はいずれも神宮及び神道・国学に縁があり、わが国にとって重要な意義を持つ。

年次	学部	参拝・見学先
1年	文	山室山(本居宣長奥墓)
2年	文	瀧原宮、丹生神社・神宮寺
3年	文	伊雑宮、御塩殿神社
4年	文	結城神社、三重縣護国神社
専攻科		山室山(本居宣長奥墓)

献詠歌 (抜粋)

大人こそは我が師と仰ぐ気吹含
ともに侍りて学び極めむ 常務理事 秦 昌 弘
鈴屋の大人のみ姿慕はしき
賛を添へたる六十余り一つ 学長 齋 藤 平
しづが身もちからのかぎりまなばむと
志を立てぬ大人のみまへに 神道博覧会 緒 方 亜 美
山室山しづけき奥津城ししまの
道をひらきし翁やすらふ 神道4 谷田部雅貴

希望者には動画を配信

6月8日に保護者対象就職講演会・説明会を開催した。40名にご出席いただき、オンデマンド視聴を希望された31名に収録動画を後日配信した。「現代の就活は楽ではない!?」その実態と親の関わり方のポイント」と題した講演会では株式会社キャリアタスの杉原真理子氏が最新の就活環境を解説し、保護者としての留意点を助言した。

令和7年度保護者対象就職講演会・説明会を開催

12月1日現在の本年の求人状況は昨年同時期に比べ15社減1名増の175社358名の求人をいっている。神社奉職希望者に対する採用内定率は90.0%となっている。内訳は学部生34名・専攻科生15名の49名(自家奉職者含む。昨年同時期49名)。

神社関係 採用内定率は好調

12月1日現在の本年の求人状況は昨年同時期に比べ15社減1名増の175社358名の求人をいっている。神社奉職希望者に対する採用内定率は90.0%となっている。内訳は学部生34名・専攻科生15名の49名(自家奉職者含む。昨年同時期49名)。

教職支援担当公式インスタグラムを開設

主に学生向け対策講座の告知や講座の様子、参加した学生の声などの情報を発信中!



下の通り。【中学校】愛知県(国語・広島県(国語)・愛媛県(保健体育))【小学校】岐阜県・浜松市・東京都・埼玉県・福井県【特別支援学校】滋賀県・東京都 三重県では令和6年度の教員採用試験から、小学校教諭の区分で大学3年生が受験できる「特別選考」を開始し、本学でも多くの学生が受験、合格を果たした。来年度の教員採用試験から、この「特別選考」の対象が全校種・教科に拡大される。教職支援担当では早期の対応が不可欠であるため、教員養成プロジェクトである「倉志会」や「つばさ」への参加を呼びかけるとともに、教職支援室の積極的な活用を奨励している。

教員、公務員に――先輩が語る合格への歩み

教員採用試験と公務員試験の合格者報告会が相次いで開催された。実体験に基づく言葉の一つひとつが、教職や公務員の道をめざす後輩たちの背中を押す機会となった。

公務員試験合格報告会

10月29日、公務員試験合格報告会が実施された。第1部では名古屋大原学園の加藤耕司氏が試験動向や学習の重点科目について説明。「勉強量は合格率に比例する」といった経験則や、漫然と勉強するのではなく、得意・苦手を可視化しながら効率よく取り組む重要性が強調された。また、公務員試験対策講座は本番ときわめて内容が近く、受講の価値の高さを繰り返し述べた。

第2部は今年度の合格者3名が登壇し、座談会形式で体験談を語った。四日市市

役所に合格した久保勇人さん(現日)、法務省専門員(法務教官)に合格した山口真凜さん(教育)、鈴鹿市役所に合格した若林咲季さん(コミ)がそれぞれの取り組みを紹介。アドバイスとして次の点が示された。



左から久保勇人さん、山口真凜さん、若林咲季さん

- インターンシップに参加し、自治体業務の理解を深める。
- 総合計画だけでなく市政アンケート等も確認し、志望理由を独自の視点で組み立てる。
- 自分の強み・弱みを把握し、端的に伝える練習機会を多くこなす。
- AIを活用して興味を持ったキーワードを深掘りする。
- 自分に合う学習スタイルを早期に確立する。
- SPIを導入する自治体が増えているため、その対策も怠らない。
- 友人や仲間と支え合い、精神的な負担を軽減する。
- 適度な息抜きを取り入れ、継続できる学習リズムを保つ。

教採合格者報告会

11月13日、公立学校教員採用試験に合格した4年生による合格者報告会を開催した。会では6名の登壇者が勉強を始めた時期や取り組み方、効果的だった学習方法、モチベーションの保ち方等について自らの経験を交えて語った。不安や悩みについても話し、参加者は熱心にメモを取るなど関心の高さがうかがえた。学生からは「実体験に基づく話がとても参考になった」「自分も頑張りたい」といった声が聞かれ、有意義な場となった。



左から吉岡紗菜さん、田邊保直さん、川口咲良さん、中島由香利さん、若谷怜さん、村田翔太郎さん

- 過去問を解いて、問題の傾向をつかむ。自分の苦手分野を把握する。
- 自分に合った勉強法を見つける。
- 模擬授業を動画に撮ってもらい、自身の無意識な癖を把握して改善につなげる。
- 面接はすべての質問の着地点に一貫性を持たせる。
- 教職・就職ガイダンスはとても役に立った。
- 5分、10分でもいいので勉強する習慣を身に付ける。
- 学校ボランティアや学童保育に参加し、経験を積む。
- 授業を真面目に受講し、何気ない先生の言葉でもメモを取る。
- 倉志会・つばさに参加すると実践的な内容が学べ、モチベーションも高く保てる。

先輩からのアドバイス

縦割り班で学年超え協力

令和 7 年度 体育大会を開催



縦割り班により、学年の枠を超え絆を深めた

11月8日、グラウンドのコンディション不良で延期となっていた体育大会が実施された。50m走やチャレンジャー・ザ・ギネスに加え、新たにダンス発表が取り入れられるなど、工夫を凝らしたプログラムが並んだ。生徒たちはこの日に向けて練習を重ね、本番では見応えある演技やレースを披露した。

また、縦割り班による対抗レースでは学年を超えて互いを励まし合う姿が随所で見られ、会場は温かな一体感に包まれた。生徒一人ひとりの努力と協力が光る、心に残る体育大会となった。

【大会結果】

1位	青組
2位	黄組
3位	赤組

※生徒縦割り班

中学校生活最後の体育大会は、縦割り班での対決がとても印象に残りました。学年の枠を超えて協力し合い、優勝という目標に向かってチームの一体感を感じることができました。唯一学年別に行ったダンス発表はクラス全員で練習を重ね、本番ではリラックスして楽しく踊ることができました。踊る直前に組んだ円陣はクラス一人ひとりを鼓舞するものであり、一体感を特に感じた瞬間でした。

3年A組 前田愛莉珠

入学して2回目の運動会。ダンス種目が追加されたり、チームが全学年混合になったりと変更点はありませんでしたが、結果的に学年・学校全体の絆が深まったと思いました。一番熱かった種目は「魔法の絨毯」です。私のチームは最初劣勢でしたが、巻き返して同率2位と分かった際には友達と歓喜に沸きました。総合結果は2位でした。来年は優勝を勝ち取り、有終の美を飾りたいと思います。 2年A組 松井春陽

中学校

高等学校

熱気がグラウンドを包み込む

第63回 体育大会を開催



全力を出し切った綱引き(左)と表彰式

雨天順延となっていた体育大会が10月3日に開催された。学年別競技(1年:バンブーレース、障害物競走/2年:二人三脚、魔法の絨毯/3年:ドラゴンレース、ムカデ競争)をはじめ、実行委員レク競技、綱引き、応援合戦、∞縄跳び、クラブ対抗リレーや4×100mリレー、20人リレーなど、多彩な種目が繰り広げられた。どの競技も白熱し、生徒たちは声援を送り合いながら一日を駆け抜けた。

体育大会実行委員長の押田君尋さんは「全校生徒の熱気がグラウンド中を包み込み、応援合戦では全学年が一丸となり、大いに盛り上がりました。みんなの笑顔溢れる体育大会になったことを心から嬉しく思います」と振り返った。

【大会結果】

1位	3年2組
2位	2年2組
3位	3年7組

20人リレー	
優勝	3年4組

スポフェスを開催



ポッチャ(上)と バドミントン

総合優勝	2-1
バドミントン	1-9
バレーボール	3-7
ポッチャ	2-5

12月19日、スポーツフェスティバルを実施。当日はバレーボール、バドミントン、ポッチャの3種目が行われ、熱戦が繰り広げられた。生徒たちはクラス一丸となって競技に臨み、協力の大切さやスポーツの楽しさを改めて実感したようだ。結果は上記の通り。

通信制課程のご案内

皇學館高等学校では、多様化する現代の学びのニーズに応えるため、全日制に加え、新たに通信制課程を併設し、令和8年度生の募集を開始します(令和7年10月10日、三重県知事より認可)。本課程は「神道」を教育理念の核に据え、個人のペースを尊重した柔軟な学習スタイルと、将来を見据えた先進的なカリキュラムを提供します。

皇學館高等学校 通信制課程

学科 ● 普通科(狭域制:三重県および愛知県対象)
開校 ● 令和8年4月1日 修業年数 ● 3年以上
募集開始 ● 令和7年12月1日 募集定数 ● 30名

特長

- 一人ひとりに合わせた徹底的な個別サポート
- 大学進学に適したカリキュラム
- 将来の可能性を広げるDX教育と「高大連携」の推進

サポート体制の特色

通信制課程で学ぶ生徒の学習を支えるため、「安藤塾」(本校:三重県伊勢市)と連携し、「安藤塾」の各教室をサポート教室として、スクーリングのない日の生徒一人ひとりの学びを支援します。ただし希望者のみのWスクールとなり、費用は別途発生するものの、一人ひとりの学びを確保する体制を推進しています。

第2学年宿泊研修 in 大阪

10月23日・24日に1泊2日の日程で、2年生が大阪で宿泊研修を行った。キャリア教育の一環として、はたおり工房・報道・空港・ガスエネルギーなどさまざまな分野の職場見学を行い、生徒たちにとっては自身の職業観を広げ、今後の進路について考える有意義な研修となった。以下に生徒の感想を掲載する。



NHK大阪放送局にてアナウンサー体験

- 「ものづくり」の講義をご担当いただいた先生はとても面白く、興味をもって話を聞くことができました。河内木綿工房では織るのがとても楽しかったです。住吉大社は伊勢神宮や去年の宿泊研修で参拝した熊野本宮大社とはまた違う美しさがありました。



住吉大社を参拝

- NHK大阪放送局が特に面白く、いろいろなラボやアナウンサー体験ができてとても良い思い出になりました。関西国際空港では普段は立ち入れない保安区域にも入らせていただき、航空業界を裏側から支える人々を間近に感じることができました。ガス科学館では多彩なプログラムが用意されており、終始楽しみながらガスエネルギーについて知ることができ、とても意義のある宿泊研修だったと思います。



ガス科学館でガスについて学ぶ

高等学校・中学校

3名が優良生徒表彰

第61回 三重県私学大会

10月18日、アスト津・アストホールにおいて第61回三重県私学大会が開催され、皇學館高等学校の福井悠真さん、押田君尋さん、皇學館中学校の石井佑吾さんが優良生徒表彰を受けた。また、中学校の岩城美紗教諭、高校の中西由佳教諭が20年永年勤続表彰を受けた。以下に生徒3名のコメントを紹介する。



左から石井さん、押田さん、福井さん

福井 悠真(皇學館高等学校)

優良生徒賞という非常に名誉な賞を受賞させていただき、とても光栄に思います。約1年間校友会活動に参加し、さまざまな方々の力を借りてここまで活動することができました。学校行事ではたくさんの方々の協力があり、私は本当に周りの人に恵まれていると感じています。今回の表彰で慢心せず、これからも人として精進していきたいと思っています。

押田 君尋(皇學館高等学校)

受賞理由のひとつに校友会総務委員長としての活動がありました。初めて約900人の生徒の前で挨拶をしたとき声が小さく詰まってしまう、うまく話すことができませんでした。友達や先生方のアドバイスを受け、何度も経験を積むことで自信が付き、うまく話せるようになりました。校友会活動を通して人間として大きく成長することができました。この受賞を糧にさらに日々精進していきます。

石井 佑吾(皇學館中学校)

今回、優良生徒表彰をいただいたことを心から嬉しく、光栄に思っています。この表彰は、私自身の学校生活を見つめ直し、さらに成長するためのチャンスだと強く感じました。残りわずかな中学校生活を最高に充実したものとするため、これからは学校行事に今まで以上に積極的に参加し、自分らしさや主体性を大いに発揮していきたいと思っています。

笛師・松下恵吾(神道4)さんが伊勢市美術展覧会で受賞

第71回伊勢市美術展覧会・工芸部門で松下恵吾さん(神道4)が制作した能管*が教育長賞を受賞した。思いがけない知らせに「驚いた」と語る松下さん。表彰式後の「作品を語る会」では若手ながら工芸に真摯に取り組む姿勢や、笛という題材の珍しさ、さらに竹と漆の魅力を最大限に引き出している点が高く評価されたという。これまで篠笛を中心に制作してきた松下さんにとって能管は初の挑戦。見事な成果を収めた。

息を吹き込むことで漆が変化し、音が育つ。そうした“人と自然の共同作業”が笛づくりの魅力と松下さん。「使い捨てが当たり前時代のからこそ、一生ものとして共に育つ笛に価値を感じます。吹き込まれた笛の艶や音色には時間の重みが宿ります」。

次なる目標は龍笛の制作。「さらに深く笛づくりを探究したい」と意欲を語る。伝統と創造のあわいで、松下さんの挑戦は続く。

*能管…日本の伝統的な横笛の一種で、主に能楽で使用される。



『日本後紀史料』第1巻が完成 創立百五十周年完結をめざして

研究開発推進センター史料編纂所は、開設以来の事業として『続日本紀』を基軸とした『続日本紀史料』(全20巻22冊)の編纂を続け、平成26年3月に刊行を完了した。同書は創立百三十周年・再興五十周年の記念事業として結実したものである。その次なる事業として、『続日本紀』に続く『日本後紀』をベースにした編年史料集『日本後紀史料』の編纂に着手し、このたび第1巻(延暦11年~同16年)が完成した。本巻は紙媒体を作成せず、電子データを学術リポジトリに登録・公開し、広く閲覧・活用に供する方針である。『日本後紀』は全40巻のうち現存するのは僅かに10巻であり、根幹史料が不完全であるため、これを基軸とする編年史料集の編纂は多難を極める。しかし、本事業は大学当局の英断により、創立百五十周年の記念事業に採択された。史料編纂所スタッフはこれに力を得、令和14年の完成をめざし、日々作業に邁進している。第1巻の公開を機に、皆様方の一層の支援と協力を願う次第である。



頒布用に作成したDVD

令和7年度
皇學館大学 教育学部 卒業記念ミュージカル

予約不要
入場無料

アリスとことばのまほう

3月7日(土) 3月8日(日)

◆皇學館大学記念講堂◆
開場 13:30 開演 14:00

スマホで友達と大ケンカ!
チクチク言葉が原因で不思議の国へ。
アリスは元の世界に戻るのか、?

皇學館大学 教育学部
0596-22-6458

皇學館大学教育学部 卒業記念ミュージカル
主幹: 皇學館大学教育学部 皇學館大学44年度
協賛: 三重県教育委員会、伊勢市教育委員会
www.aalis.jp

第64回 倉 陵 祭

学友会が初の企画運営で「新風」起こす

第64回倉陵祭が10月25日・26日の両日開催された。今年度は初の試みとして、企画から運営までのすべてを学友会総務部が担当。テーマ「新風」のもと、伝統に新たな価値を加える取り組みが見られた。



学友会
総務委員長の
甲田さん

初日は厳かに執り行われた祭典から始まり、各教室ではクラブなどの学生展示や、毎年子どもたちに人気の劇や茶会など、多くの催し物が開催された。また、学会の研究発表やゼミ発表も行われ、ステージではアンサンブル部やよさこい部「雅」、ダンス部などが迫力のステージで観客を魅了した。2日目は、学生参加型企画として「eスポーツ」や「ポッチャ」、「謎解きウォークラリー」などの新企画を導入。記念講堂ではアーティストライブやお笑いライブも行われた。

学友会総務委員長の甲田真吾さん(現日4)は、日頃から活動を共にする学友会の強みを生かし、既に築かれた信頼関係や円滑なコミュニケーションによって準備を効果的に進めることができたと振り返る。柔道部に所属し、学友会行事などの企画運営経験はなかったが、「大学への恩返しをしたい」との強い思いを原動力に委員長にチャレンジ。慣れない業務に苦労しつつも、仲間と課題に向き合う過程で「かけがえのない経験」を得られたと語り、異なる背景を持つ学生同士が互いを尊重し合い、強い結束が生まれたことが最も大きな成果と話した。

企画面では学生参加型の新企画を導入。また、昨年の課題を踏まえ、屋外ステージを全面的に屋内へ移行し、天候リスクの軽減と準備負担の削減を図った。一方で、パンフレットのWeb公開に伴う案内不足、学生参加率の伸び悩みなどの改善点も明らかとなった。

準備期間の日々を「宝物」と表現し、「この経験が自らの価値観を変え、周囲にも良い変化をもたらした」と語る甲田さん。今回得られた成果と課題は、次回の倉陵祭をさらに発展させる礎となるだろう。



祭典：倉陵祭の安全と成功を祈願



ダンス部は圧倒的なパフォーマンスで魅了



日頃の練習の成果を披露(書道部)



チームワークが発揮された学友会総務部

第46回 皇 中 祭

クラスの力を結集させ、絆が深まった2日間

11月14日・15日に第46回皇中祭が開催され、校内は多彩な企画と展示で大いに賑わった。今年はクラス展示、作品展示、部活動体験などをスタンプラリー形式で公開し、来校者は生徒たちの創意工夫を楽しみながら会場を巡った。

初日は合唱コンクールとブックレビューバトルが実施された。多くの観客を前にした全体合唱で生徒たちは緊張しつつも最後まで歌い切り、舞台上立つ喜びと達成感を味わった。ブックレビューバトルは出場メンバーにとって新たな挑戦の場となった。

2日目のクラス展示は活気に満ち、未来理工部による「皇學館のマイクラ再現」や宝探し企画が特に注目を集めた。

校友会の松井春陽さんは「成長を実感した時間だった」と振り返り、ピアノ伴奏でミスしながらも弾き切った充実感や、来校者の笑顔が心に残ったと話した。前田愛莉珠さんは、準備段階で意見の衝突もあったが、自分の考えを伝えることで協力が生まれ、より良い展示づくりにつながったと語る。また、周囲を見て行動し、困っている人に手を差し伸べる姿勢の大切さを痛感し、「学年全体の成長と仲間と歩む喜びを改めて感じた」と満足した様子で話した。

今年の皇中祭は形式の変化があるなかでも生徒たちが主体的に挑戦し、それぞれが新たな経験と学びを手にした2日間となった。育まれた絆と成果は、かけがえのない財産となるに違いない。



厳粛な雰囲気の中、執り行われた祭典



熱戦となったブックレビューバトル



ハーモニーが響いた合唱



3 学年クラス展示



2 学年クラス展示



1 学年クラス展示

アクティブ スチューデント
Active Student

高い志とチャレンジ精神でもって学内のみならず、さまざまなフィールドで活躍している皇學館生たち。本コーナーでは彼らの熱い思いとともに、その活動ぶりをご紹介します。

赤松芽衣^(コミ2)さんの作品が優秀賞

第45回「地方の時代」映像祭・市民・学生・自治体部門

皇學館大学大学生テレビ局に所属する赤松芽衣さん(コミ2)の作品「山奥の小さな楽器店ラモシオン」が、第45回「地方の時代」映像祭・市民・学生・自治体部門で優秀賞を受賞した。赤松さんは



受賞報告のため、12月3日に伊勢市長を表敬訪問した。左から鈴木健一伊勢市長、赤松さん、原田柁さん(教育4)

「まさか自分の番組が賞をいただけるとは思わず、とても嬉しかった。指導してくださった先生や撮影に協力してくれた仲間に感謝している」と話す。作品づくりのきっかけは、趣味のギターにまつわる番組を作りたいと考えた際、松阪市郊外にある楽器店ラモシオンの存在を知ったことだった。親子でバンド活動も行う垣内章伸さんと息子の楽守さんが営む、こじんまりとしながらも温もりあふれる店。番組制作では、2人の人柄や店の穏やかな空気感が伝わるシーンを選ぶのに注力したという。完成後、垣内さんから「お客さんにこんな反響があったよ」と電話があり、「作ってくれてありがとう」と言葉をもらえたことが

何より嬉しかったと振り返る。赤松さんは、テレビ局での活動を通してコミュニケーション力や協調性が育まれ、最後までやり遂げる力が身に付いたと実感。これからは撮影や編集の技術を磨き、仲間と支え合いながら、多くの人に届く作品づくりに挑戦していきたいと意気込んでいる。



「音楽の楽しさや自分らしく生きていくことの大切さを伝えたかった」と赤松さん(中央)

何より嬉しかったと振り返る。赤松さんは、テレビ局での活動を通してコミュニケーション力や協調性が育まれ、最後までやり遂げる力が身に付いたと実感。これからは撮影や編集の技術を磨き、仲間と支え合いながら、多くの人に届く作品づくりに挑戦していきたいと意気込んでいる。

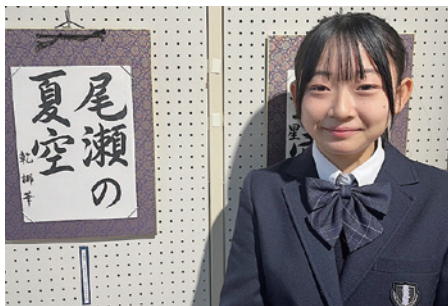
作品の視聴はこちらから▶



乾 椰華^(高1)さんが「尾瀬の夏空」で大賞に

第14回 尾瀬書展

第14回尾瀬書展で、皇學館高等学校1年の乾椰華さんが見事大賞に輝いた。思いがけない受賞に「はじめは驚きましたが、とても嬉しかったです」と顔をほころばせる。受賞作「尾瀬の夏空」は、「雲ひとつない尾瀬の空



大賞受賞の喜びを語る乾さん

を表現したい」との思いを胸に臨んだ作品だ。行書を用いて線に強弱をつけ、自然の伸びやかさを意識したという。書道を始めたのは小学1年生。字の美しさを大切に両親の勧めがきっかけだった。「書けば書くほど上達するところが書の魅力。正解がなく、自分らしい表現ができるのが楽しいです」と語る乾さん。「これからは、自分のスタイルを確立し、賞を取れるような書を追求したい。そしていつか、人に認められる書道の先生になりたいです」と、筆を手にも未来を見つめている。

卒業記念ミュージカル開幕に向け

実行委員長 野中ありあ^(教育4)さんが奮闘

3月7日(土)・8日(日)の2日間、本学記念講堂において教育学科有志による卒業記念ミュージカルが今年度も上演される。演目は「アリスとことばのまほう」。実行委員長の野中ありあさん(教育4)は、子どもが楽しみながら理解できる構成を心掛けたと話す。言葉のかけ方が相手の気持ちにどう影響するのか、自然に感じ取れる演出を盛り込んだ点について、「顔が見えないやり

とりが増えた今だからこそ、思いやりのある言葉を選ぶ大切さを感じてほしい」と語る野中さん。制作過程では意見がぶつかることもあったため、誰でも書き込める事項書を作成し、意見を出しやすく、全員で進捗を確認できるよう改善。結果、情報共有がスムーズになり、協力し合いながら制作を進められるチームへと成熟していった。こうした経験を通して、互いの考えを尊重しながら形作っていく難しさと、乗り越えた先にある価値を実感したと振り返る。

卒業記念ミュージカルは3月7日(土)・8日(日)14時開演。ぜひ家族や友人をお誘いあわせの上、ご来場ください。



教育学科での学びを生かしたいと話す野中さん



舞台を創り上げるプロセスそのものが貴重な学びの場となっている

女子軟式野球部が2年連続ベスト4

全日本大学女子野球選手権大会

女子軟式野球部が毎年8月末に富山県魚津市で開催されている全日本大学女子野球選手権大会でベスト4に進出した。昨年の初出場に続く快挙で、2年連続の上位進出となる。

部員10名と監督・コーチ陣4名の計14名という少人数のチームながら、一人ひとりが野球への強い情熱を持ち、日々楽



仲の良さはびかいち!

結果に「とてもうれしいです。全員が力を出し切ったからこそその成果だと思います」と笑顔を見せる。また、キャプテンとして「みんなが野球を頑張ろうと思える雰囲気づくりを大切にしてきました」とチームへの思いを語った。

大会を振り返り、勝ち進むにつれて体力不足を課題に感じたと話す山口さん。「冬に入るので、基礎練習に加えて体力づくりにも取り組んでいきたいです。鬼ごっこなど楽しさも取り入れながら、少しずつ力をつけていきたい」と意欲を示す。今後の目標について、「来年はこれまでの結果を超えたい。一人ひとりが向上心を持ち、リーグ戦や練習試合でも内容や勝敗にこだわった試合をしていきたい」と力強く語った。

メンバーに聞きました!

●川口咲良さん(国史4◆サード)

個性が溶け合い、一つにまとまる統一感のあるチームです。「強い気持ち」を合言葉に仲間も思い出も増えていきます。入部して良かったと必ず思える部活です!

●飛岡愛心さん(教育4◆ライト)

野球を心から楽しみ、全力で向き合う姿勢がチームの強み。仲間と支え合うことで大きく成長できました。勝利の瞬間の一体感は格別。初心者でも安心して挑戦できます!

●原 奈津美さん(教育4◆ピッチャー)

メリハリがあり、仲が良いところが魅力。役割を理解して行動できるようになり、4年間とても充実していました。部活で大学生活がぐっと豊かになります!

●森島希菜里さん

(教育4◆ショート・ピッチャー)

仲間の活躍を自分のことのように喜べる温かいチームです。責任感が育ち、大学ジャパンでの経験は野球の楽しさを再確認する瞬間でした。大学で続けて良かったです。

●岸 香織さん(国史3◆レフト)

メンバー全員が「強い気持ち」を持っているのが強み。忍耐力がつき、勝利の瞬間に入部して良かったと実感します。思い出も多く、青春できる部活です!

●豊岡 葵さん(教育2◆ファースト)

全国4位や勝利の喜びを全員で分かち合えるチームです。少人数で仲が良く、前向きに野球を楽しんでいます。運動好きな方、ぜひ一緒にプレーしましょう!

●酒井菜々巴さん(教育1◆センター)

多くの人と関わる中で、自分の意見を伝える力が身につきました。大学から始めましたが、優しい先輩と仲間のおかげで毎日楽しいです。声を掛け合いながら野球を楽しんでいます。

●山口花凛さん(現日1◆セカンド)

勉強と部活を両立しながら結果を残しているのがチームの強み。自分から行動できるようになりました。先輩後輩の壁がなく、温かい雰囲気の中で貴重な経験ができます。